

# 小学校三年の社会科を

## こんなふうによつてみた

柳原小学校 川田 信子

第2学期から、県試案に依る社会科単元計画で、学習を進める事にして、改めて、カリキュラム立てなおした。(1学期に学習したことは、県試案の単元の中で、「私たちの町」「町の産物」相当する内容をもったことになるので、之等の単元は、学習済という事にして、第2学期は、「安全なくらし」から入った)

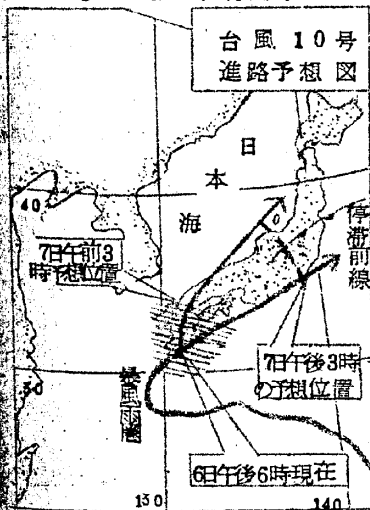
### 安全なくらし

この単元のねらいは、

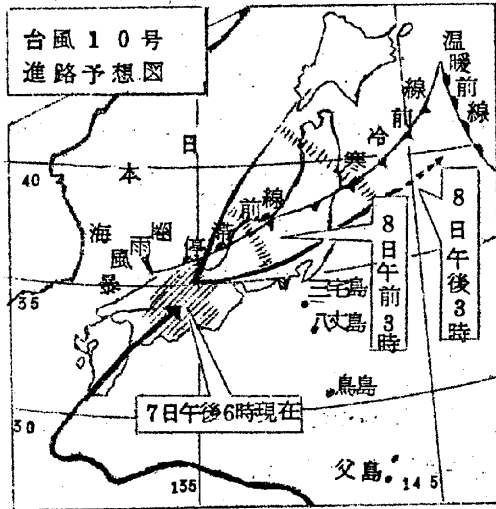
あらしや大水は毎年の様に襲つて来る災害であり、之を防ぐために、いろいろ工夫がなされている。こゝではこの事を中心にして私達が安全なくらしをする為にどんな仕組やしごとをしていけるか、又どうしたらよく防ぐことができるかを考えながら町としての生活に気づかせたり、町への愛情や、協力の心を育てる。という事である。

はじめてこの単元に入ったのが、9月11日の水曜であったが丁度この頃台風10号の記事が新聞などにざわしていた。そして子供達も不安な日々を送っていたので導入段階として、先ず新聞記事

3 2 9 7 付記事



3 2 9 8 付記事



をつめをやらせた。そしてその被害が、九州、四国、中国など13県に及んだ生々しい被害状況写真に接して、子供達は、台風の恐しさ、を感じとる事ができた。尚私が経験した、昭和22年11月の渡良瀬川洪水の際の岩井山堤防決壊の時の惨憺たるありさまを話して聞かせ、この大水

# 小学校三年の社会科を

## こんなふうにやってみた

柳原小学校 川田 信子

第2学期から、県試案に依る社会科単元計画で、学習を進める事にして、改めて、カリキュラムを立てなおした。(1学期に学習したことは、県試案の単元の中で、「私たちの町」「町の産物」に相当する内容をもったことになるので、之等の単元は、学習済という事にして、第2学期は、「安全なくらし」から入った)

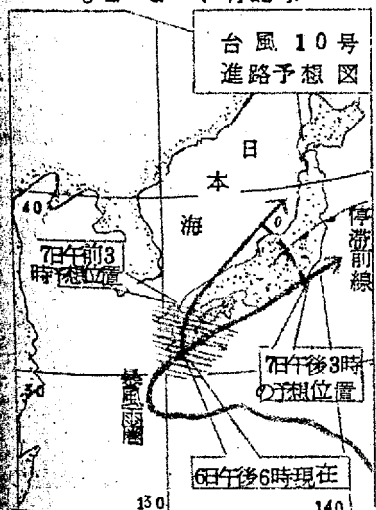
### 安全なくらし

この単元のねらいは、

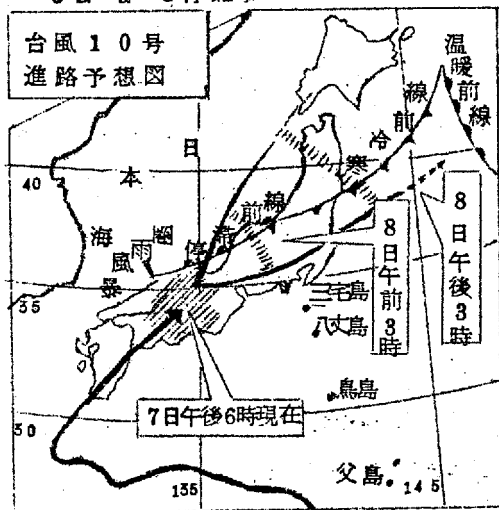
あらしや大水は毎年の様に襲って来る災害であり、之を防ぐために、いろいろ工夫がなされている。ここではこの事を中心にして私達が安全なくらしをする為にどんな仕組やしごとをしているか、又どうしたらよく防ぐことができるかを考えながら町としての生活に気づかせたり、町への愛情や、協力の心を育てる。という事である。

はじめてこの単元に入ったのが、9月11日の水曜であったが、丁度この頃台風10号の記事が新聞にぎわしていた。そして子供達も不安な日々を送っていたので導入段階として、先ず新聞記事

3 2 9 7 付記事



3 2 9 8 付記事



をつめをやらせた。そしてその被害が九州、四国、中国など13県に及んだ生々しい被害状況の写真に接して、子供達は、台風の恐しさ、を感じとる事ができた。尚私が経験した、昭和22年9月の渡良瀬川洪水の際の岩井山堤防決壊の時の惨憺たるありさまを話して聞かせ、この大水

のために、非常に不幸なことになってしまった人たちがたくさんいたことを知らせた。この大津波はカスリーン台風によっておきたこともつけ加えた。

かく恐ろしい台風は毎年々々襲うものであり、それが大なり小なりの、被害を私たちに及ぼしている。そのため、農家では、特に210日としてこの日をおそれている、ことを教えた。農家の子供達、2、3名は、その事をよく承知していた。

学習して行くうちに、或子供が、「毎年々々来るのなら、何とか来ない様にする方法はないのですか。」と問題を投げかけてきた。そこで皆で図書等で調べることにした。中に注意深い子供がいて、2年の廊下に、観測船の掲示物が貼ってあった事を思い出したので、その掲示物を借りて来させた。之には、大変よく、台風を防ぐための方法が図示されてあったので、とても好都合であった。気象庁の働き、観測船観測飛行機、テレビ、新聞等による報道、消防署、警察の働き、堤防工事、ダム建設、植林から、各戸の心構え等までであった。

それでは、足利ではどうだろう。問題を自分達の町へもってきて考えた。はじめに気のついたのは、通3丁目から通学する子供達で、渡良瀬の堤防を工事中であることや、砂かごがあることを皆に発表した。その日の放課後、この子供達に宿題として、堤防工事の様子を写生してきてもらうことにした。(次の日画いてきたものは、余り上出来でなかったが、学級の皆に代って、あらためてよく見学して来たという点では、貴重な資料であった。)本城の子供は山に沢山若木を植えてあるが、あれも大水を防ぐ方法だと発表した。又消防団員を父に持つYは、大水のきげんがある時には、半鐘や、サイレンを鳴らすことになっていると発表した。私は、昭和22年の時に警察や、消防署だけでなく、足利の皆が罹災者の救援や、被害地の復旧にあたったことを話した。そして協力の大事なことを教えた。

以上で台風や大水による災害についての学習は終わった。この単元に11時間かける様になっていたが、7時間で終わってしまったので、各グループに分かれて、「日本に多いその他の災害と、危険」について、自由な研究をやらせた。あるグループでは、大地震を、他では、火事、冷害、旱害、雪害、交通事故等についてしらべた。(あしかが、P223の渡良瀬川の洪水はたいへん参考になった。)

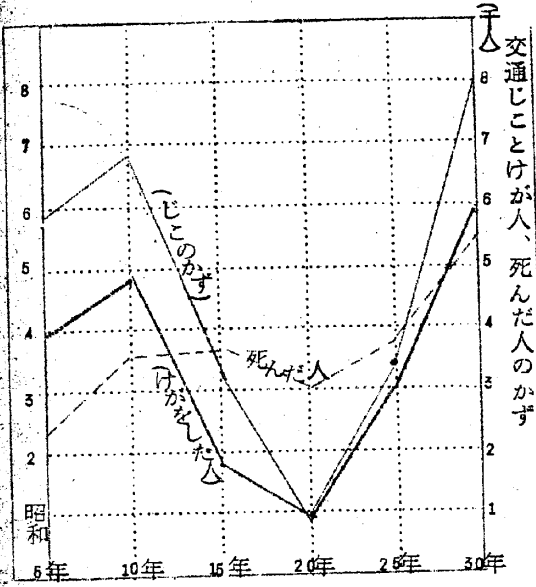
## (2) 道路とバス

この単元のねらいは、

身近にある道路やバスが、どんな働きをしているかを考えることにより、道路や、交通機関、村と町のゆきぎ、物資の交換など、毎日の暮らしの上に大へん役に立っていることを理解すると共に、自分の町と、他地域との結びつきについて気付かせる。ということであった。

そこで私は、前の単元のおわりに、或グループで研究発表した交通事故について先ずとり上げた。即ち昭和5年から30年迄の交通事故の数と死傷者の数に就いての警察本部の発表を見ると、

昭和20年に一たん下降したグラフの線が、次第に高くなってきていることから、「何故こうな



つたのだろう。」という発問をし、子供に考えさせた。その結果「乗物が増えた為に、交通事故が多くなってきた」ということに気がついた。

丁度この単元に入った次の週から、交通安全運動(10月22日～31日)が始まっていた。そして足利警察署の前に県内及足利に於ける交通事故の統計や、グラビヤ写真が展示されてあったので、子供を引率して、警察署の前に、教室を移動し、此処で授業を行った。

右の表は、足利の昭和31年と、昭和32年の1月から9月迄の交通事故の比較の表であるが、昭和32年は、9月迄に既に前年の約2倍の発生件数である。この事は足利に於ても、乗物が非常に増えてきていることを物語り、大へん便利になつてきた反面、恐ろしい交通事故が増えていることを子供に理解させることができた。

足利市の交通事故

事故年度	発生数	死者	負傷数	物損害件額
昭和31年	56件	4人	59人	408千円
昭和32年(1月~9月)	108	9	122	565
増加	52	5	63	157

栃木県内の交通事故 (昭和31年度)

昭和32年 1月~9月のもの	
死亡者	74人
負傷者	1156人

(天候別にみたもの)

天候	晴	曇	雨	雪	霧	計
件数	400	155	72	7	1	635
%	63%	24%	11.4%	1.3%	0.3%	100%

(曜日別にみた交通事故)

曜日	月	火	水	木	金	土	日	計
件数	97	87	95	98	94	79	94	635
順位	1	5	2	4	3	6	3	

(どんな乗物が、事故を多くおこしたか)

乗物	普通トラック	バス	ハイヤー	小四トラック	小型ハイヤー	自三トラック	自動二輪車	軽自動車	原動機専自転車	目転車	其の他	人	計
件数	129	12	26	50	34	141	17	86	66	30	1	43	635
順位	②					①		③	④				

(時間的にみたもの)

時間	午前0時	6	7	8	9	10	11	正午	午後1時	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
件数	1	2	2	1	4	9	6	2	5	10	7	9	3	7	7	4	2	2	0
順位						②				①		②		③	③				

(昭和31年度 83件)

県内の天候別のもものでは、晴天の日に最も事故が多く、割合雨の日が少ないのは意外であつた。之はやはり、晴天の日には、乗物の数が最も多くなるからであらうと思ふ。曜日別に見たものでは、月曜が最も多く、1日おきに少なくなっている。自分達がそうであるように、月曜日以外の次で、気分的にボヤツとしているためであらうか。

### 危ない道

足利市内に於いて、交通事故を起し易い場所が地図に依って示されていたが、それによると、国道に多く、中でも、旧市内の伊勢町から、通3丁目の大通りが多くなっている。尚子供達の通学区域で考えると、北銀座の交差点（玉屋前）が事故が多くなっている。その理由をお互いに考えさせた。

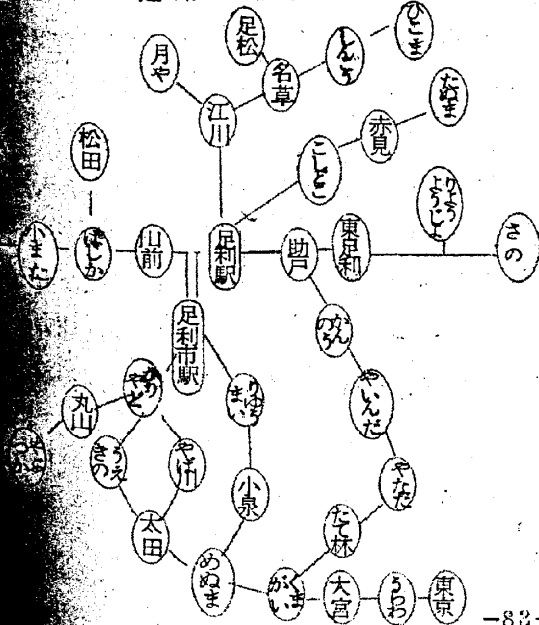
- ① 道路がせまい。
- ② 見通しがきかない。
- ③ 信号がないので、交通のきまりを守らない人がいる。
- ④ 道路の狭いわりに、交通がはげしい。

以上結論に達した。そこで、交通事故を防ぐにはどうしたらよいだろうという事に対して、

- ① 道路を広げる
- ② 信号をつける
- ③ 交通規則を守る

以上という事になつた。そこでもう1度、警察の前に掲示されてあつた、交通規則を、思ひかえして見た。

### バスや道路の働き



今まで学習してきたことは、交通機関の発達によって起る害の方ばかり見て来たが、一方振りかえつて、交通機関の発達によって、私達が受けているよい点を学習する事に、話を向けていった。一番利用されているであろう所のバスについて乗った事があるかどうか聞いて見た所、全員が乗っているので、バスで行った方面を調べると、一番多いのは、何といっても太田であつた。つぎは佐野、桐生、薮塚、名草、飛駒、月谷、などで、熊谷や東京へ行ったものもあつた。儲そこで、「バスはどこから出でど

んな道を通っているのだろうか」に発展した。どこから出てについては夜、バスのしまわられる場所として考えたら、東武駅前、両毛駅前、山川停留所という事がわかった。何処を通って何処迄という事は、あしかがみのP12.0バス運行の概況を参照して、バスの路線図を仕上げさせた。又実際の白地図に、通る道を記入させた。それが足利の主な道路ということが判った。ここで、バスや道路がどんな働きをしているかという事に話題を移し、教科書（東書）下のP1

「のりもの」の項を参照させて考え合わせ、次の様にまとめた。

- 人を町から村へ、村から町へと運ぶ。
- その為町の人と村の人が仲良しになれる。（つながりが深くなる）
- トラック等で物を運ぶ。
- 町から村へ色々なものが運ばれるので、村の生活が便利になる。
- 村から珍しいものをいたり食料や、燃料を運ぶので、町の人々の生活も豊かになる。
- 交通が便利になると、そこに商店や、工場等できて、賑かになる。

### (3) バスのない頃の暮らし

こゝではおじいさん、おばあさん達の話を聞いてこさせて、昔の乗物のようすを話し合った。やおかご。（おかごには、身分のある人でなくては乗れなかったということも、）馬車、人力車、明治21年5月に始めて見た、陸蒸気の話。明治40年8月には、電車開通、の事など。子供達は喜んで話し合い又聞いた。（あしかがP107足利市の交通史概略参照）

更に例を、渡良瀬川の渡し舟の時代から、舟橋現在の鉄橋への変遷に依って、足利の人達の暮らしが便利になったことを学習した。又、馬や馬車の走っていた頃と、陸蒸気や、電車の出現に依って起こってきた、市民の生活の変化。大八車で佐野や桐生へ、織物を届けていた時代から、オート三輪、トラックに変わってきた現在の、工場の運輸上の好都合なこと、それに依って生産の生産率が非常に向上してきたこと等も考え合わされた。

### (4) 安全な道路

交通の発達によって考えられなければならないことは、先ず道路の問題になってくる。人々の生活を便利にし、向上させる為によい道路にしなければならない。現在どんな方法で、それをやっているのだろうか、考えさせた。所が丁度学校裏で、道路工事が始っていたので、平らな道で、広い道になおすために工事をやっているのだということがわかり、その他、疎開道路、佐野街道などが挙げられた。それから工事現場にたてられた標識、線路の標識などに注意がむけられた。以上で第2学期の社会科学学習が終了した。

つづいて第3学期の学習は、「町の人と村の人」という単元から入った。

## 町の人と村の人

の単元のねらいは

自分達に関係の深い、村の人のくらしを、明らかにする事により、村の人の町の人の働きや、役わりを理解し、お互いに協力して生活していく態度を養う。という事である。

村という解釈を、私は、旧足利以外の地区というようにして学習を進めてきた。

### (1) 近くの村

旧足利のまわりにある、北郷、名草、毛野、三重、山前、山辺の6地区を近くの村とした。この事に就いては1学期に学習がしてあるので、簡単に済ませた。

### (2) 町のくらしと働き

### (3) 村と町のたすけ合い

} この学習のために、ふだん余り行くことのできない。名

草へ実際に行ってその様子を見学することに子供達と、話が決まった。そこで始めは自転車を  
使って(乗れないものは、後へのせてという話もでた)学級全員で行こうではないかという、  
子供達の切なる願いがあったが、自転車では、色々困難な点があるので、バスを使用すること  
にした。そこで他の学級へもよびかけて、8年全員で、下の起案によって名草地区の見学をす  
ることになった。

### 名草地区見学に関する起案

- |      |   |   |
|------|---|---|
| 1. 期 | 日 | 2月4日(火)   |
| 2. 方 | 面 | 名草地区及、名草弁天、巨石群見学  |
| 3. 目 | 的 | ① 「町の人と村の人」に於ける目標を達成する為に行う。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ 近くにどんな村があるか判る</li> <li>・ 村の暮しの様子を知る</li> <li>・ 村の産物を知る</li> <li>・ 村と町の協力を知る</li> <li>・ 交通機関は、町と村とを結ぶ大切な仕事をしている、ことを知る</li> </ul> |
|      |   | ② 地図と実際との照合、(道順、地勢等)  |
|      |   | ③ 県立公園 巨石群の見学   |
|      |   | ④ 大足利市の最北部に於ける、輪廓をつかむ   |

### 方 法

- |       |       |              |
|-------|-------|--------------|
| ① 乗物  | ..... | 大型バス5台(東武バス) |
| ② 費用  | ..... | 30円(バス往復代)   |
| ③ 日 程 | ..... | 学校出発(バス) 9時半 |
|       |       | 勘定谷戸 10時     |



名草弁天 (徒歩) 11時半

巨石群見学

名草弁天発 (徒歩) 12時半

勘定谷戸着 2時

学校着 2時半

- ④ その他 …… 名草中、植久先生に弁天様まで同行していたとき、名草地区のくらしの様子や、巨石群の説明を聞く
- ⑤ 参加人員 …… 3年全員 (約350名)
- ⑥ 引卒者 …… 3年担任の職員全員 (6名)

この様な起案で、実施することになった。その間社会科の時間には、社会科委員会から出されている、足利の白地図で、道順を研究したり、途中の施設や地勢などを研究した。尚3年には少々程度が高いかとも思ったが、山の等高線を塗り分けさせた。之が非常によい効果があった。子供達は、全じ高さの線がどこ迄も続くことに面白さを感じ、色で塗り分けているうちに、山の高さの差のあること、そして山は続いていること、足利の北部に行くに従って、山が高くなって行くこと、名草弁天が高度400米で、行道山も全じ高さであること。又等高線をぬり分けることに、非常な努力のいることから、地図を作ることが容易なわざでなかったことを、推察した。

借、この様な準備期間を経て、愈々2月4日(火)になった。幸いなことに天候に恵まれ、起案通りの日程で無事に見学を終了し得たことは有難かった。

#### 見学のまとめ

- ① 旧足利を離れると、江川町、菅田町を経て、名草下町、中町、上町などの地区のあることがわかった。
- ② 名草に入ると、周囲に山が多くなり、田や畑は少なくなった。(上町にはだんだん畑がみられたしもやや、まきが道端に積まれてあったり、又帰途 名草中の前の炭焼きを見せてもらったり、弁天様で、大きな花崗岩の石切りをみて、名草地区のくらしの様子がわかった。尚、井戸がなく川水をつかっていたり、水車の米つき、藁藁き、根など子供達には珍しいものありたつた。尚名草地区では、至る所に有線放送があつて、各戸への連絡が大へんうまくいつていることを知った。
- ③ 生姜が庭先に干してあったので、既習の「名草の生姜」が実証された。又もや、まき、炭、花崗岩などの産物があることを知った。
- ④ 名草上町にバスがきた時、市の移動図書館「ともしび」に会ったので、町の文化施設が、村にやってきて、村の生活を豊かにしている現実をみた。更に、材木を積んだ、トラックや、もやを積んだオート三輪が足利の方へ向かって、送り出されることも見られた。帰途には、馬車で材木が足利へ、送られるのもみた。又市で経営している巨石荘には、市のハイヤーがつけ

であったり、土木課長が山に入って、樹木や道路（山路）の測定をしていたので、村と町との協力ぶりをみる事ができた。

⑥ 上記で見た現実、交通機関が町と村とを結ぶ大切な仕事をしていることを知った。この時、上町でトラックやオート三輪と交換するために、大へん時間がかかったので、山路の不便さを経験することができ道路の大事な役目を知った。又道路工事をさかんにやっているのも見る事ができた。

⑦ 自分達で塗った地図の道順を追い乍ら、途中の施設や、建物、地勢などと照合することができた。地図と全じ様に、奥に行くに従って、山が多く高く、せまってきたこと。又バスの走っている所の高さや、弁天様の高さが、どの位であるか、ということも勉強することができた。

⑧ 名草中町に分岐点にきて、一方へ行くと、新合村に出ることを、運転手から聞き、又勘定谷戸から少し行って左手を入ると藤坂峠を越えて、坂西町に出ることを植久先生からお聞きしました。そして最後に巨石群に至って、大足利市の北の果てにきた感を濃くした。

⑨ 弁天様で、弁慶割石や御供石、更にその奥の巨石群をみて、子供達は驚きのさげびをあげた。まして石割風の由来をきかされて、植物の生命力の不思議さにうたれた様である。

⑩ その他、炭を焼いている現場をみせてもらったり、石運びのそりの話をきいたり、川の水を利用した、水車の米つきを、見てきて、とても喜んだ。

以上は、見学後、子供達にかゝせた、見学後記をまとめたものである。

以上で、見学の目的は達せられた。そして又本単位の八分通りの目標は達せられたので、現在の単元を学習中である。

いろいろな町や村

自然や、社会の条件に依って、いろいろ生活の違った、村や町があり、お互いにたすけあっている。この様なことを学ばせるので、この小単位は、教科書学習をとり入れている。教科書（東書）にある。

2. いそがしい田うえ（農村）

3. 海べの村

4. 山の村

教科書下にある

1. とかいのくらし

2. みなど

を取扱って、この単元を終わりたいと思っている。

以上を聞いて見れば、足りない事だらけの指導であったが、それでも子供達は、「社会科は好きだ」と言っているし、又足利の地図に就いても、之を上手く読みとる様になってきているという事は、以上

以上によってせめてもの喜びであります。